



令和8年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 4 号
令和8年7月1日

学校教育目標 主体的に生きる人間の育成 《意欲・健康・豊かな心》

飛躍の夏に大きく羽ばたけ土呂中生

校長 竹本 久子

1学期の最終月である7月が始まります。梅雨独特の湿気の多いじめじめとした天候に加え、大規模地震の発生件数が多くあり、自然災害に対する備えが必要とされる毎日ですが、健康と安全に気を付けて終業式までの日々を大切に送っていききたいと思います。

さて、3年生は6月19日～21日の日程で京都・奈良へ修学旅行へ行ってきました。修学旅行のスローガンは「Last Memory ～抹茶より濃い笑顔で彩る赤学年の集大成～」でした。集大成ということで、これまでの学校生活で培ってきた仲間との協力、計画的な行動、時間を意識して先を見据えた行動、社会の一員としてルールやマナーを守る姿……数限りない多くのことをこの修学旅行で習得できるように学年全体で学習してきました。一人ひとりが自分の役割を果たし、修学旅行の成功のために活動する姿は本校の目指す「主体的に生きる人間の育成」の具現化の一つとなりました。保護者の皆様に御理解と御協力をいただき、素晴らしい修学旅行となったことに改めて御礼申し上げます。

ところで、海外留学をした方から「あなたが自国の文化で誇れることは何ですか？」という質問を受けたという話を聞きました。今、土呂中生がこの質問をされたら何と回答するでしょうか。京都・奈良では多くの海外からの旅行者を見かけました。現在、FIFAワールドカップ北中米大会が開催されていますが、日本代表選手26名中海外チーム所属選手が23名となっています。前回のカタール大会では、19名が海外チーム組でしたので、今の日本サッカー界では世界で活躍する選手が特別な存在ではなくなったことが垣間見えます。生徒たちが社会で第一線として活躍する将来は、益々国際化が進み、仕事も旅行も世界基準で活動することが当たり前な時代がやってくると予想されます。その際、自国の文化について語れる力は世界と渡り合える力と同じくらい大切になると思います。自国を知る視点は世界を知る視点となる、そんな力の礎に修学旅行の経験が生きていくことを期待しています。

7月18日から39日間の夏季休業に入ります。生徒には目標を立て、充実した生活を送ってほしいと思います。生徒自身が自分で自分の心にチャイムを鳴らし、睡眠・食事といった基本的な生活習慣を整え、健康にも十分御留意ください。また、御家庭におかれましてもお子様と家庭での約束を話し合い、安全に気を付けてお過ごしください。お祭り等、地域の行事に参加する機会もあると思います。地域の一員としても、自分の役割を意識できる人に成長することを願います。様々な体験を通し、2学期始業式で一回り成長した姿に会えることが楽しみです。

保護者並びに地域の皆様、1学期の本校教育活動への御理解と御協力をいただきまして、ありがとうございました。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。